



創立120周年

# 東京歯科大学広報



卒業証書を手し、満面の笑みを浮かべる卒業生：平成20年3月25日（火）千葉校舎

## 第113回卒業証書・学位記授与式

第113回卒業証書・学位記授与式は、平成20年3月25日（火）午前10時より千葉校舎講堂において挙行され、第113期卒業生126名が晴れの門出の時を迎えた。

式は、本学混声合唱部による校歌斉唱の後、佐藤亨学生部長による開式の辞に続いて、列席者一同国歌を斉唱し、開式した。

薬師寺仁副学長の学事報告に続いて、小田豊教務部長より卒業生126名が一人ずつ呼名され、卒業生代表として青木一充君が、金子譲学長より卒業証書・学位記を授与された。また青木君

は学長賞として、賞状及び金メダルの授与も受けた。続いて血脇賞の受賞者4名を代表し奈良宏周君に、精励賞の受賞者10名を代表し木村領太君に、また卒業論文賞13名を代表して、佐藤絵美子さんにそれぞれ賞状及び金メダルが授与された。

その後、金子学長が卒業生に対し告辞を述べられ、続いて井上裕理事長、大山萬夫同窓会会長が祝辞を述べられた。また、在学生代表の樋口はる香さん（5年）から送辞が贈られ、これにこたえて卒業生代表の青木君が答辞を述べた。

最後に久保周平講師（口腔臨床健康科学講座）

2008年2・3月

229号

本号の主な内容

- ・第113回卒業証書授与式
- ・台北医学大学医療管理学科大学院生等来校
- ・国際渉外部レポート
- ・第57回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式

の指揮、高橋由香里さん(3年)の伴奏により全員で校歌を斉唱し、第113回卒業証書・学位記授与式は閉式した。

引き続き記念品贈呈式が行われ、大学、同窓会、父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ記念品が贈呈された。その後、卒業

生は体育館2階アリーナへ移動し、恩師と共に記念撮影に臨んだ後、第4教室にて代表者以外の卒業証書・学位記および授賞賞状・金メダルが井出吉信副学長より授与され、すべての行事が無事に終了した。

## 学事報告

東京歯科大学

副学長 薬師寺 仁

現在、本学に在籍する学生は816名であります。

これらの学生の教育については、専任者として教授57名、准教授48名、講師84名、助教125名の合計314名、このほかに臨床教授等、嘱託教員、客員教員および非常勤講師、合わせて476名が担当しております。

本日、第113回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、前記在籍者のうち126名であります。これを大学設置以来の卒業生と合わせますと7,974名、専門学校設置以来の卒業生と合わせますと13,987名となります。

なお、高山歯科医学院創立以来の卒業生を通算しますと14,278名となります。

平成20年3月25日



金子学長より卒業証書を授与される卒業生：平成20年3月25日(火) 千葉校舎講堂



井出副学長より褒賞賞状および金メダルを受け取る受賞卒業生：平成20年3月25日(火) 千葉校舎第4教室



井上理事長より心のこもった告辞が贈られた：平成20年3月25日(火) 千葉校舎講堂



卒業論文賞を受賞し、笑顔の卒業生：平成20年3月25日(火) 千葉校舎講堂

## 告 辞

東京歯科大学  
学 長 金子 讓

第113期生の皆さん、卒業おめでとう。

本日のこの式典は、126名の皆さん一人ひとりに対して、その課程を修了したことを大学が証明し、祝うためのものです。また、それと同時に、皆さんが次の新しい世界に向かうための心構えをしてもらう意味もあると私は思っております。

東京歯科大学のルーツは、明治23年に本邦初の歯科医師医育機関として設立された高山歯科医学院であり、その10年後に改称して再出発した東京歯科大学であります。その後も東京歯科大学専門学校、戦後に旧制東京歯科大学、そして現在の新制東京歯科大学と我が国の歯科医学教育のパイオニアとして幾多の努力をしながら発展してきました。このように本学には、非常に長い歴史がありますが、東京歯科大学の価値は、年数の長さという物理的な単位にあるのではないのです。高山歯科医学院創立者である高山紀齋先生の進取の気性、開拓精神、そして建学者 血脇守之助先生のヒューマニティーによって創られたいつの時代にも変わることのない建学の精神に基づいた教育理念によって、有為な人材育成を行ってきたことに、その価値があると私は考えます。また、このお二人に共通していえることは、歯科医学・歯科医療発展のための高く強い「志」があったことであると思えます。皆さんには、先人の抱いたこの「志」を継承していただきたいと思っております。

21世紀、国際社会は「知識基盤社会」を迎え、高等教育はこれを踏まえた政策に転換されており、より高い平均教育レベルとともに個性豊かな卓越した能力を有する人材が求められております。これは、グローバルな競争社会であり、歯科医療の世界もこうした社会の歯車の一つとして動いていくはずであります。東京歯科大学では、皆さんに対して、次の時代を常に意識し、多くの知識・技術を教えてきました。今後は、複雑な社会構造の中で、皆さんは事にあたって選択をし、実行していかなければなりません。そのためには、いかなる時代、いかなる社会においても、それに順応した社会性を持つことが大切であり、人間として成長し続けていくことが重要な課題となるでしょう。

また、「歯科医師である前に人間たれ」という血脇先生のお言葉である本学の建学の精神を基に、開拓精神を持った人間性豊かな医療人になることを強く意識して、学生生活を送らせてきたつもりです。改正された歯科医師法には臨床研修の基本理念として「歯科医師としての人格の涵養」が謳われております。歯科医師の人格とは、一社会人としての人間性に医療人としての職業倫理を備えた人格であると思致しますが、まさに血脇先生が明治時代に言われたことが、現代で求められているのです。これは、今日の歯科医学教育の中で、あるいは医療人として最も大事な基本理念であります。そして、この精神の継承が東京歯科大学の伝統であり、世紀を越えて生き続けているのであります。皆さんが、この精神を持ち続ける限り、いかなる時代においても、何事にも翻弄されることなく、前を見つめて進んでいけると確信しております。

さて、本学は高山先生が東京の芝区伊皿子に高山歯科医学院を創設してから、平成22年に創立120周年を迎えようとしております。120周年という年月は人間に例えるならば大還暦という大変記念すべきものであり、この創立120周年を機に今一度、創立時の原点に戻り、建学の精神を再認識することが必要であると考え、記念事業を執り行う運びとなりました。本記念事業のメインテーマを「継承と発展」と致しましたが、これは国を動かす、歯科医学、歯科医療制度の発展に大きく寄与してきた本学の伝統を未来へ継承し、歯科界の先導としてさらなる発展を遂げていく本学の未来像を意味したものであります。未来は現在のつながりであり、21世紀の国民歯科医療に、我々がより貢献するためにも、本学が希望に満ちた将来展望を描き、次の時代にリレーランナーの如くつなげていくことが重要であると考えます。皆さんと一緒に明日の東京歯科大学を創っていかうではありませんか。

最後になりますが、医療人として何よりも大切なこと、忘れてはならないことは人間としての「心」

を持つことであります。医療とは人間が人間を癒す行為であり、どんなに優れた知識や技術を持っていたとしても、そこに人間としての心がなければ、それは医療と呼ぶことはできません。皆さんは、物事に対して、感激する心や愛する心、そして慈しむ心を常に持ち続けて下さい。そして、人間性を高めていけるよう、日々研鑽して行って下さい。

保護者の皆様、皆様の愛情があっご子弟の卒業が成しえたことと思います。大学として深甚なる敬意を表します。

第113期生の門出にあたり、輝かしい未来と健康を祈念致しまして、告辞と致します。

## 祝 辞

学校法人東京歯科大学  
理事長 井上 裕

卒業生の皆さんおめでとう。6年間楽しいこと苦しいこと色々あったと思いますが、今は良き思い出になっていることと思います。

皆さんが入学された6年前、私は三権の長である参議院議長の職に就いており、公務多忙な毎日をご過ごし、入学式には欠席いたしました。私の皆さんに対する思いをお祝いの言葉にして、熱田常務理事に託したことを思い出します。

私事になりますが、先日私の同級生で新潟出身の目黒君のお嬢さんご主人から目黒君のお孫さんにあたる息子さんが卒業することになりましたとお手紙を頂きました。手紙には、目黒君がお孫さんの入学式で晴れ姿を見て涙しながら「校旗は燦たり 風ひるがえれり……」と歌ったとしたためられており、在りし日の目黒君を昨日のこのように思い出しました。今日の卒業式を誰よりも心待ちにしておりましたが、天国でさぞかし喜んでのことでしょう。

「血闘イズム」、「東歯家族主義」の言葉を皆さんよく耳にしたいと思います。これは作り話でも物語でもありません。卒業式や入学式に出席するたびに、百有余年前から脈々と受け継がれているこの精神に触れることが出来ます。これからは皆さんが血闘イズムの伝道者となり後世に受け継がれますことを祈念致しております。

私の好きな言葉に、アメリカの発明家エジソンは、「天才は1%の才能と99%の努力だ」と言いました。私も天才や秀才ではありませんでしたので、人に見えないところで人の何倍もひたむきに努力をして参りました。

皆さんはこれからが人生の本番です。新しい環境で様々な出来事があると思いますが日々精進、一步一步しっかりと歩いて行って下さい。また、6年間培ってきた友情は何物にも代え難いものです。これからも大切に育て生涯の糧として下さい。

保護者の皆様、大変おめでとうございます。お子様の晴れ姿に感無量であろうと思います。本来であれば皆様のもとへお返ししたいところですが、現在は1年間の研修期間が定められており、研修医として勉強しなければなりませんので、来年を楽しみにして下さい。

本学も、2年後の平成22年に創立120年、人間で言いますと大還暦という節目の年を迎えます。記念行事も計画されておりますので、同窓会、父兄会、大学が一丸となって素晴らしい式典を開催できますようご支援とご協力をお願いいたします。

本学には、金子 譲学長を始め多くの素晴らしい教職員が控えておりますので、些細なことでも何かございましたらご連絡下さい。迅速に対応させていただきます。

最後に、卒業生の前途を祝してお祝いの言葉と致します。卒業おめでとう。

## 祝 辞

東京歯科大学同窓会  
会 長 大山 萬夫

第113回卒業証書授与式にあたり、卒業生の皆さん並びにご列席のご父兄の皆様へ東京歯科大学同窓会を代表致しましてお祝いを申し上げます。

入学以来歯科医学の習得に努力され、本日ここにめでたくご卒業の日を迎えられました皆さんに、心よりお慶びの言葉を贈りますと共に、今日まで深い愛情と理解をもってお支え頂いたご父兄各位のご苦勞に対し心から敬意を表す次第でございます。また卒業生の皆さんへの教育指導に当たられた本大学教職員の諸先生方に心より御礼申し上げます。

本日より皆さんは 我国最古の歴史を持つ全国109支部8000余名の東京歯科大学同窓会会員の一人となられました。おめでとうございます。

同窓会に新しい力、無限の可能性を秘めた誠に頼もしい新会員をお迎え出来ました事、諸手を挙げて歓迎致します。

さて卒業生の皆さん、いよいよ臨床研修歯科医としての臨床研修が始まります。今皆さんは大いなる期待で胸を膨らませておられると共に若干の戸惑いを持って、明日を見据えておられる事でしょう。

現在日本人の平均寿命は大きく延び高齢化社会を形成してきております。国民の皆様は健康指向が強く、歯科医療に対する関心は非常に高いものが有ります。これに応える事が我々の責務であり生きがいでも有りましょう。若い先生方の対応が注視されて来ます。

ここで、皆さんに先輩として、はなむけの言葉をさし上げたいと思います。一つには診療に臨み患者さんの志向する所を正しく深く理解の上、全人的医療の確立を目指す事であり、二つには患者さんが技術面で最新にして、高い成果を得られる様に自己生涯研修の実施であり、また最後に患者さんより信頼を失うような医療行為を厳に戒め、専門職として医の倫理の高揚に努めることがトータルな診療姿勢として、肝要と存じております。インフォームドコンセント即ち信頼の医療の確立が目標でありましょう。

皆さん、東京歯科大学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を忘れることなく、良心と尊厳をもって自分の専門職を貫徹して下さい。それによって厳しいと云われて居る歯科界の現況下ですが、必ずや道は明るく広く展開するものと確信しております。頑張ってください。

終りに臨み、本日ご列席の皆様をはじめ卒業生一同のご健勝と今後のご発展を心より祈念致します。これをもってお祝辞と致します。

## 送 辞

在学生代表  
樋口 はる香

花々の蕾も膨らみ始める陽春のこの良き日、ここに卒業証書授与式を迎えられた卒業生の皆様に対し、在校生一同心より御慶び申し上げます。

歯科医学への志と大きな希望を胸に本学に入学されてから六年間、多面においてご活躍される先輩方のお姿は常に私たち後輩の模範とするところであり、伝統ある本学の数多き先輩の中でも最も身近な目標でありました。その様な先輩方に勉学のみならず、部活動、生活面に至るまで温情あふれるご指導をいただいたことに、心より感謝申し上げます。

私たち在校生は先輩方の築かれた輝かしい栄光を引き継ぐ責任の重さを感じるとともに、後輩に伝え続け更なる歴史を築けるよう決意を新たにしております。

先輩方はこれより、晴れて夢にみた歯科医学の道に進まれようとしています。歯科医療を取り巻く環境が大きな変化を迎える昨今、先輩方の進まれる道は必ずしも平坦な道のりではないかもしれませんが、いつまでも夢と誇りを持ち、歯科界の明るい未来を切り開くために先輩方のお力を活かしていただきたいと存じます。

東京歯科大学の卒業生であることを誇りに幾多の困難を乗り越え、立派な歯科医師としてご活躍され、社会に貢献していくお姿を陰ながら応援させていただくとともに、今後の新たな目標として同じ舞台に立てるよう在校生一同努力していく所存でございます。

今後とも私たち後輩の良き先輩として変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、これまで良き先輩として私たち後輩を導き、たくさんのご指導と励ましをいただいたことに心から感謝の意を表し、先輩方の今後のご活躍を心よりお祈り申し上げ送辞とさせていただきます。

## 答 辞

第113期卒業生代表

青木 一充

今年の冬は、千葉の街も何度か雪景色に変わり、寒さの厳しい日が続きました。そして3月に入り、徐々に寒さも和らぎ、優しい春風とともに木々の新芽が揺れるのを目にするようになりました。出会いと別れの季節である「春」がやってきたことを実感しております。

本日は学長をはじめ、諸先生方、ならびにご来賓の皆様、そしてご父兄の皆様に見守られながら、無事に卒業式を迎えることができましたことは、卒業生一同喜びに耐えません。これもここにご臨席いただいた皆様の温かいご指導とご支援によるものと心より感謝申し上げます。

只今は、金子学長の告辞、そして井上理事長はじめご来賓の皆様より示唆に富んだ励ましのお言葉を頂き、大変身の引き締まる思いでございます。また、在学生の皆様からは心温まる送辞を頂き、本当にありがとうございました。

私事で恐縮ながら、学士として5年前に編入学した日が、まるで昨日の様に思い出されます。それほど本学での学生生活は密度が濃く、充実したものでありました。文系から理系への編入という未知の世界への不安と期待が大きく入り混じった心境であったことをよく覚えています。特に解剖学実習などは不安のみでありました。しかし、そのような中でも、諸先生方や職員の方の親切なサポート、及び素晴らしい友人に恵まれたことで、なんとか乗り切ることができました。

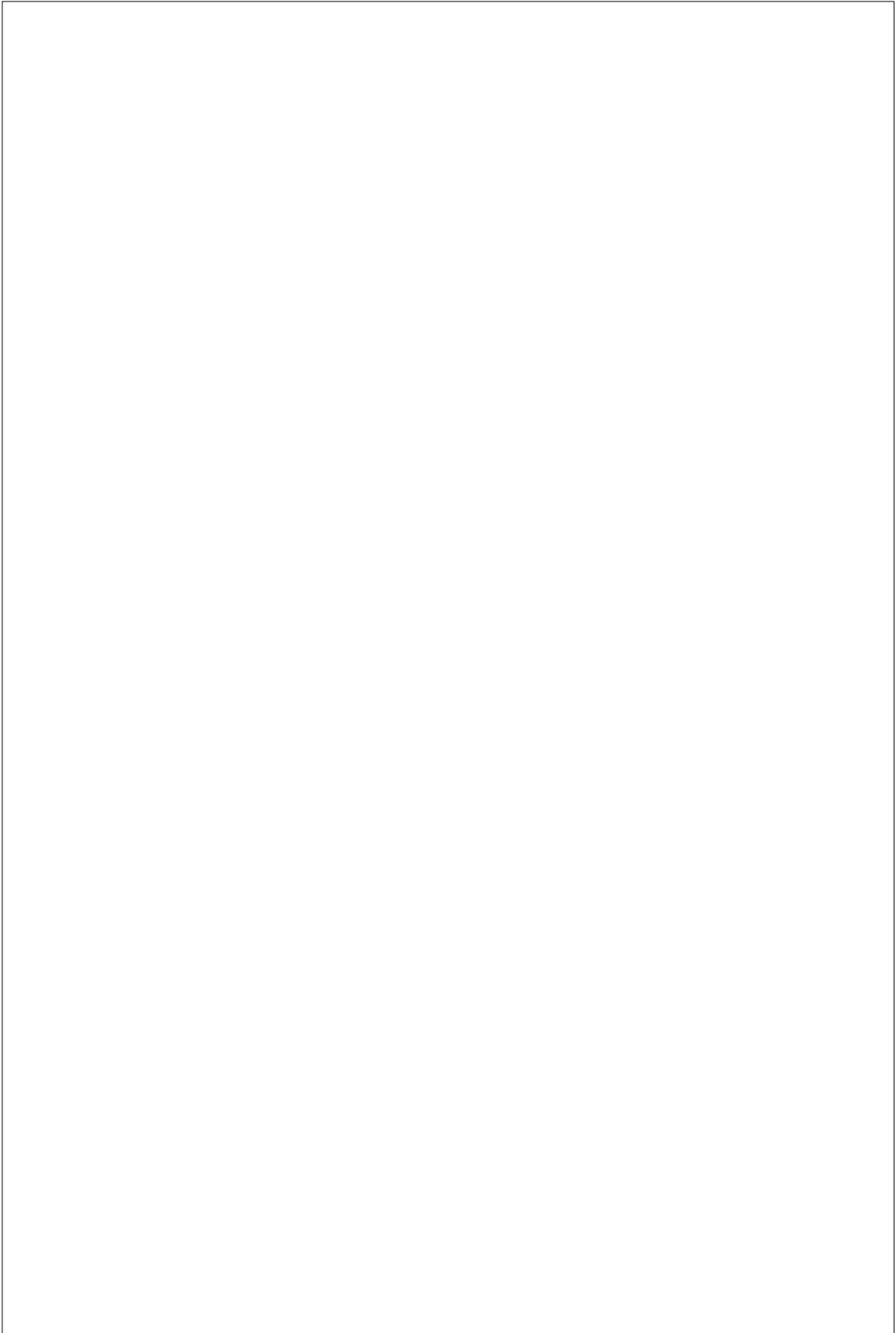
また、勉学、部活動などに毎日費やす大変充実した生活を送り、自己を磨くことができたのも、諸先生方のお力添えや、陰ながら支えてくれた家族のおかげとっております。これらの機会を与え、暖かく見守り、支えてくださった父兄会、同窓会並びにご父兄の皆様にも深く感謝申し上げます。次第でございます。

昨今、年金問題や偽装問題のほか、拉致問題や薬害問題など、悲しみのニュースが多い世の中において、私達は歯科医師として、また人としてこれらに向き合わなくてはなりません。社会に出ると言うことは、権利や主張が尊重される一方で義務や責任も果たさなくてはなりません。自らの言動に責任を持ち、社会に要求される義務を果たしてこそ、初めて自己が尊重され、社会人として認められていくに違いありません。

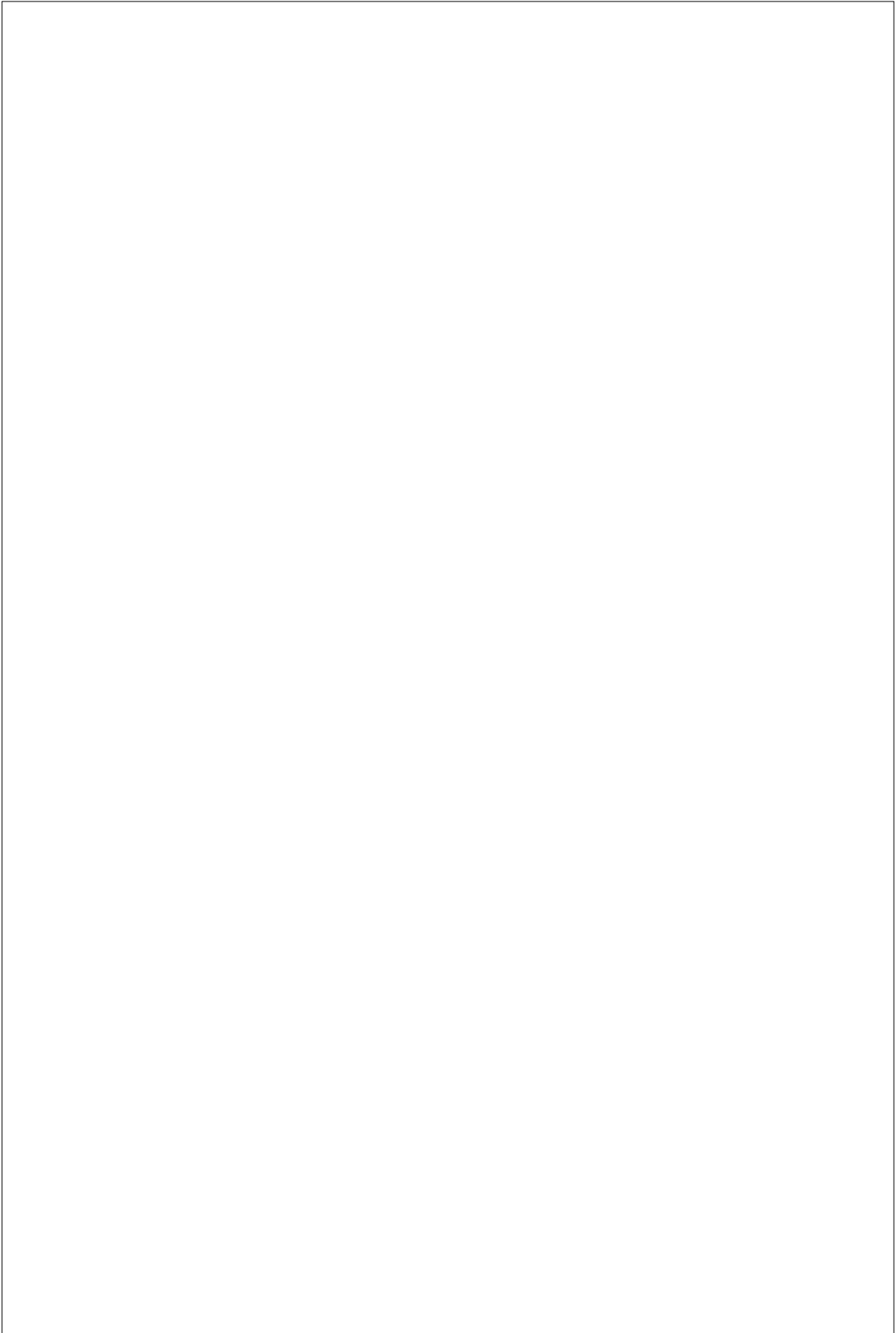
4月から、私達はそれぞれ歯科医師として道を歩み始めます。その道は決して平坦ではないでしょうが、東京歯科大学の卒業生であることを誇りを持ち、ここで得た知識や経験を生かし、自信を持って、素敵な未来に向かって広く社会に貢献していきたいと思っております。

最後に、今日までご指導くださり、私達の可能性を広げてくださいました諸先生方、素晴らしい

環境を整えてくださった職員の皆様、そして温かく見守ってくださったご父兄の方々に、重ねて心より御礼申し上げますとともに、後輩の皆様方のご健闘とご活躍をお祈りいたし、東京歯科大学のより一層の発展を願って、答辞とさせていただきます。







## 学内ニュース

博士(歯学)学位記授与

第570回 平成20年2月14日(木)授与

第558回 H19.1.17 合格

齋藤百合子(歯内)第1712号 甲・995号

第564回 H19.7.11 合格

時崎照彦(理工)第1740号 乙・721号

第571回 平成20年3月12日(水)授与

第541回 H17.6.15 合格

吉井正俊(解剖)第1645号 乙・703号

第557回 H18.12.13 合格

李満旭(病理)第1699号 乙・716号

第560回 H19.3.14 合格

鬼澤勝弘(病理)第1727号 甲・1008号

第560回 H19.3.14 合格

雨宮花(臨検)第1732号 甲・1013号

第564回 H19.7.11 合格

野口竜実(理工)第1741号 乙・722号

第570回 H20.2.14 合格

Poveda Marlene(有床義歯)第1745号 甲・1020号

第572回 平成20年3月26日(水)授与

第557回 H18.12.13 合格

水橋博行(口外)第1695号 甲・982号

第557回 H18.12.13 合格

作間巧(口外)第1698号 甲・983号

第559回 H19.2.14 合格

福山賀子(歯内)第1721号 甲・1004号

第567回 H19.11.7 合格

牧野麻子(歯周病)第1749号 甲・1024号

第570回 H20.2.14 合格

末森豪(保存修復)第1763号 甲・1038号

第566回 H19.10.17 合格

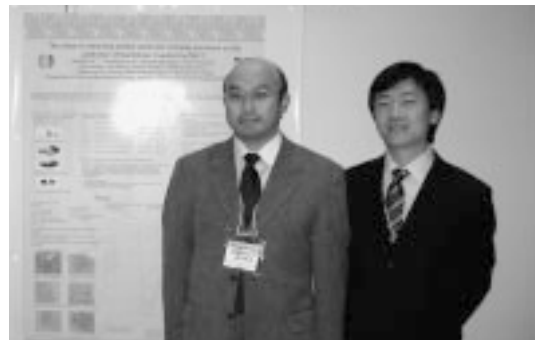
山本あや(歯放)第1784号 甲・1059号

崔念暉客員講師日本口腔腫瘍学会優秀ポスター賞を受賞

第26回日本口腔腫瘍学会が、平成20年1月24日(木)と25日(金)に大分県由布市の別府コンベンショナルセンターで開催された。本学会におい

て、口腔外科学講座に1年間研究留学していた崔念暉客員講師が「The value of osteoclast related cytokines in biopsy specimen on the prediction of mandibular invasion by OSCC」という演題でポスター発表をおこなった。そして本学会における口腔癌研究の発展に寄与するものとして、優秀ポスター賞が授与された。発表内容は当教室の口腔癌研究の柱の一つである、「顎骨浸潤癌と破骨細胞ならびに関連サイトカインに関する研究」である。

本研究は以前より明らかにしてきた、in vitro およびin vivoにおける顎骨浸潤癌との関連性のあるサイトカインについて、臨床応用できないか検討したものである。すなわち、歯肉癌の術前における生検サンプルを用いて、種々のサイトカインの発現を解析した。その結果、顎骨浸潤癌において、RANK、RANKLを始めとした種々の抗サイトカイン抗体の免疫染色で陽性所見が得られた。また臨床的には、各サイトカインの免疫染色と、破骨細胞を特異的に染色するTRAP染色の二重染色法による評価が、顎骨浸潤を同定するうえで極めて有用であることが示唆された。本研究結果は、歯肉癌の外科的治療を行ううえで、顎骨の浸潤状態をエックス線学的に評価するのみならず、術前生検から得られる生物学的評価法として、新たな指標と成り得る可能性があり、臨床的に意義深い成果であるといえる。今後北京大学で同様の研究を続け、本学口腔外科学講座と密接に連携した研究へと発展することとなる。



受賞した崔客員講師 柴原孝彦主任教授とともに：平成20年1月25日(金) 別府コンベンショナルセンター

### 一般入学試験(期)実施

平成20年度一般入学試験(1期)が、平成20年2月2日(土)午前9時から千葉校舎及び大阪会場(天満研修センター)において実施された。昨年に引き続き千葉校舎及び大阪会場から志願者が自由に会場を選択できるようにした。千葉校舎290名、大阪会場65名、合計355名の志願者があり、英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接が実施された。2月5日(火)午後4時には、千葉校舎基礎棟入口にて合格者が発表され、合格者に合格通知が発送された。

### 平成19年度第6回水道橋病院教職員研修会開催

平成20年2月4日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇ホールにて平成19年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「本院におけるインシデント・アクシデントに係わる実情について」と題して、本院のリスクマネージャーである辻野啓一郎講師、荒木みさ子歯科衛生士長並びに鈴木福代看護師長が講演した。

辻野講師は、リスクマネジメントの考え方について再確認を行い、ヒヤリ・ハット、アクシデント報告を行うことの意義について講演を行った。そして18年度、19年度の水道橋病院におけるヒヤリ・ハット、アクシデント事例について報告を行い、歯科医師の側から起こりやすい事故として「誤飲・誤嚥」を取り上げ、予防策の考え方について述べた。更に実際に病院搬送となった誤飲事例の対応を紹介し、事故予防と事故が起きたときの適切な対応の重要性を強調した。

また、荒木歯科衛生士長からは、平成19年4月から12月までの歯科衛生士からのインシデント・アクシデントおよび針刺し事故の事例および対応策について説明があった。

また、歯科衛生士部における医療安全に関する活動として、薬品棚を「医薬品、安全使用の為の業務手順書」に沿って整備した事例について説明した。更に、「医療機器安全管理」の一環として、歯科用チェアの点検を毎日行い、その結果を全科共通のチェック表に記入し、歯科衛生士部で一括管理している旨説明があった。

続いて、鈴木看護師長は、水道橋病院におけるリスクマネジメント部会の活動として、報告事例収集計・分析・事例検討、具体的な

予防対策について検討・現場へのフィードバックなどに取り組んでいる旨説明した。また、リスクマネージャー全員で順番に担当している「トピックス」の発行について報告し、情報の共有化と職員の意識向上を目指している旨説明した。

看護部では、患者・家族の参加による医療事故防止を基本的な姿勢としている。事故防止対策の1例として、患者のリストバンドは患者とともにカルテで血液型を確認し、リストバンドには患者が自分で氏名を記載する、看護部で多い傾向にある与薬事故防止対策では、「5R+1F」を与薬時に行う確認の基本としていることが報告された。

医療安全対策は水道橋病院で働く全員の意識の向上と、部署や職種を超えて、皆が協力し、積極的に取り組む必要があると考えられる。また、ミスや事故を単に個人の責任として捉えることなく、報告事例から学ぶという観点で医療事故防止対策を考え、病院職員全員で組織的に医療事故防止対策に取り組んでいくこと、また、「ヒヤリ・ハット」レベルの報告が多いほど



講演する辻野講師：平成20年2月4日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール



講演する荒木歯科衛生士長：平成20年2月4日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール

事故を最小限にすることが可能となることが示唆された。

#### 第4学年共用試験(CBT・OSCE)実施

平成17年度から正式実施となった『臨床実習開始前の学生評価のための共用試験』(医療系大学間共用試験実施評価機構)が、第4学年生を対象に行われた。これは、社会からの要請に応え、信頼される医師・歯科医師を養成するために、全国の医歯学部を有する大学が参加し、診療参加型臨床実習を推進するにあたり学生が一定水準以上の知識、技能、態度を有しているか評価するものである。CBT(コンピュータによる客観試験:知識領域)が、平成20年2月7日(木)に千葉校舎第1,2教室で、OSCE(客観的臨床能力試験:態度・技能領域)が、2月24日(日)に千葉校舎臨床基礎実習室、臨床シミュレーション実習室、セミナー室において実施された。また、CBT追・再試験が3月3日(月)に行われた。

CBTは、130名の学生が一斉にコンピュータ画面に向かって多肢選択式の試験に取り組んだ。今年も昨年同様、選択肢が6つ以上最大26まで設けられる多選択肢問題の2連問、4連問(L,R形式)や順次解答型五肢択一問題の2連問、4連問(W,Q形式)、五肢択一問題(A形式)の各形式で合計320問、6時間におよぶ試験が行われた。学生は、最後にコンピュータ上でアンケートに答え、試験を終了した。

OSCEは、医療系大学間共用試験実施評価機構で策定された共通課題、評価シート、評価マニュアルに従って実施され、初診時医療面接1課題、基本的診察および検査能力1課題、基本的技能1課題、説明・指導1課題、基本的臨床技能2課題にレスト(休憩)を加えた7ステーション(ST)で実施された。他大学から18名の外部評価者、東京SP研究会から7名の標準模擬患者(SP)の協力を得て、総勢130名を超えるスタッフを動員して行われた。臨床実習を間近に控えた学生たちは、真剣な面持ちで試験に臨んでいた。

#### 大学院入学試験(期)、口腔がん専門医養成コース実施

平成20年度大学院入学試験(期)が、平成20年2月16日(土)午前9時30分から千葉校舎において

実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。期は9名の志願者があり、合格者の発表は2月22日(金)正午に行われた。また、平成20年度より大学院歯学研究科に口腔がん専門医養成コースを新設、入学試験を平成20年3月22日(土)午前9時30分から千葉校舎において実施した。志願者・受験者はともに1名で、外国語(英語)試験および面接・口頭試問を実施、合格者の発表は3月26日(水)午後4時に行われた。なお、平成20年度大学院歯学研究科の合格者は、期合格者33名と合わせ43名となった。

#### 第264回大学院セミナー開催

平成20年2月21日(木)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第264回大学院セミナーが開催された。今回は東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科先端材料評価学分野の高橋英和准教授を講師にお迎えし「支台築造用ファイバーポスの特性」と題する講演をうかがった。

支台築造と歯根破折の関連が注目され、歯根部での破折が生じにくく、審美的な材料としてファイバーポスが注目されている。しかし、市販ファイバーポスの組成や物性値に関する情報は必ずしも十分ではない。先生の講演では、曲げ強さと弾性係数を始めとして、ファイバーポスの構造とファイバーの含有量、エックス線造影性、コア用コンポジットレジンやレジメンメントとの接着など詳細な研究データが紹介された。また、ファイバーポスの有用性については、疫学的評価が不十分で鑄造支台築造や既製金属ポスのすべてに置き換わるものではないので、適切な症例選択を基に使用することが大切であると話された。



講演される高橋准教授:平成20年2月21日(木)、千葉校舎第2教室

### 第71回歯科医学教育セミナー開催

平成20年2月25日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第71回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「東京歯科大学 統合的e-Learning Programの実際」と題し、歯科医学教育開発センター主任の河田英司教授、歯科医学教育開発センターの村上聡助教より説明が行われた。

まずはじめに、河田歯科医学教育開発センター主任より統合的e-Learning Programの実際について、開発理念及び概要の説明が行われた。全身状態に配慮した総合的診断力を持つ歯科医師の養成を目指し、各系統科目のコンテンツを横断した統合型学習を支援するため、各系統科目のコンテンツを統合的学習用に再編、有機的に連携させ構築している旨説明があった。

次に、村上助教よりシステムの主な機能として、学習可能な最小単位の教材を組み合わせる系統科目：統合テーマの教材を作成する単位教材機能、キーワード、タイトル等から検索できるフリーワード検索機能、歯科医学に関するトピックについて空間的連想的に把握することができ、関連したコンテンツについて有機的、総合的な自学自習を支援するトピック空間機能等の説明があった。

また、使用方法について、学生は、学習サイトにおいてコンテンツを自由に閲覧でき、登録されているコンテンツを一覧で見ることができる。コンテンツ閲覧中にも別のリンクも閲覧でき、検索したいものがあればフリーワードで入力することにより、トピック、フォルダ、シナリオ教材、コンテンツから一括して検索することができることである。また、シナリオに沿って学習、練習問題を行い、学習の進捗状況が記録されるシナリオモードという学習機能も設けているとのことであった。教員は、管理サイトにおいて、教材一覧からコンテンツを選択し、素材について編集もすることができ、また、動画、画像、PDF等多様なメディアに対応した学習進捗状況、練習問題の結果、教材評価アンケート等の結果についても閲覧することができるとのことであった。

最後に、このe-Learning Programを学生の自学自習に有効に機能させるために、絶えず更新していく必要があることと、倫理教育等人的な成長にも役立てられるような工夫も加えていき

たい旨説明があった。当日は約100名の参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する村上助教：平成20年2月25日(月) 千葉校舎第2教室

### 第265回大学院セミナー開催

平成20年2月26日(火)午後6時より千葉校舎第2教室において、第265回大学院セミナーが開催された。今回は九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学講座硬組織構造解析学分野の城戸瑞穂准教授を講師にお迎えし、「口腔における感覚受容機構と新たな口腔感覚細胞の探索」と題する講演をうかがった。

口腔内へ食物が入ると味覚の受容体が活性化すると同時に、形、温度、匂いなどの食べ物の正常をも感じ取り、食物中の有害物質や毒物を識別することができる。味覚の、甘味、苦味、塩味、酸味、うま味の5つの基本味については、舌の味蕾に存在する味細胞に発現している受容体を感じ取り、その情報を脳へ伝えていることがわかってきた。しかし、「味」はこれら基本味に加えて、食感といわれるような形、硬さ、温度などの感覚も含まれた総合的なものであるが、温度などの感覚の機構はわかっていないという。そこで、城戸先生の研究グループは唐辛子の成分であるカプサイシンの受容体(TRPV1)に焦点をしばって、口腔粘膜における温度感覚受容体の分布や役割について検討され、その詳細をお話しいただいた。

カプサイシンの受容体は口腔粘膜に分布する神経のみならず口蓋臼歯間ひだの上皮細胞にも存在する。この細胞は味蕾の味細胞のマーカー(PGP9.5やNCAM)に陽性を示し、カルシウムイメージングによる細胞内カルシウムの上昇から

機能的にもカプサイシンの受容体が発現していることが明らかとなった。さらに関連する研究のプレリミナリーなデータも紹介していただいた。大変内容の濃い有意義な1時間半のセミナーであった。



講演される城戸准教授：平成20年2月26日（火）千葉校舎第2教室

歯科病院における電子カルテの現状についての講演会

平成20年2月26日（火）午後6時より、千葉校舎講堂において電子カルテ導入準備委員会主催により、千葉病院の全教職員を対象に講演会が開催された。現在、歯科大学および歯学部附属病院において、歯科電子カルテシステムを稼働している2病院の1つである日本大学歯学部附属歯科病院医療管理部 瀧川智義准教授を講師にお迎えし、「歯科病院における電子カルテの現状」と題する講演をうかがった。

当日は200名を超える参加者が集まり、日本大学歯学部附属歯科病院の歯科電子カルテを参考に、歯科電子カルテのメリットとデメリット、電子カルテ化する上での問題点等、多岐に渡り講演していただき歯科電子カルテへの見識を参加者に深めてもらった。

平成19年度口腔科学研究センターワークショップ開催

平成19年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップが、平成20年2月29日（金）千葉校舎第5教室において開催され、教員、大学院生をはじめ、客員教授、名誉教授、出版・報道関係者等約150名が出席した。

ワークショップは、奥田克爾口腔科学研究センター所長の司会によって開会し、初めに金子 謙

学長の基調講演「大学の研究支援」が行われた。講演では、現在の大学における研究の状況について、研究支援体制と現在までに得られた成果について説明し、社会の要請、世界的潮流を視野に入れた、これからの研究の方向性とその必要性について展望した。さらに、その達成には、国際的視野を持つ若手研究者の育成が急務であることが語られた。

次に行われた第6プロジェクト「口腔内感覚の脳内認知機構の解明とその臨床医学的展開」の研究成果報告では、プロジェクトコーディネーターである一戸達也教授の座長のもと、生理学講座澁川義幸講師が、「ヒト大脳皮質体性感覚機能の特殊性」のテーマで、第6プロジェクト全体の研究の進捗状況を含め成果および研究の進捗状況について報告を行い、それに対する質疑応答が行われた。

最後に、HRC第7プロジェクト「口腔アンチエイジングによる生体制御」の研究進捗状況報告が行われた。本年度の発表は、プロジェクトコーディネーターである井上 孝教授の座長のもと若手研究者を中心に行われた。基礎研究班 から遠藤隆行講師が「骨系細胞におけるタンキラーゼおよびテロメア結合タンパク2の発現」、基礎研究班 から村松 敬講師が「唾液を検体としたエイジングマーカーの確立」、細胞組織活性班から、奥村礼二郎大学院生が「ラットエナメル芽細胞におけるNCXを介したエナメル質石灰化機構」、予防班から、竜 正大学院生が「加齢が口腔細菌叢に及ぼす影響」、再生班から、監物 真大学院生が「若年および加齢ラット歯髄SP細胞の分離」のタイトルで研究進捗状況を報告し、それぞれの内容に対して活発な質疑応答が行われ、盛会裡に終了した。



研究進捗状況を報告する竜 大学院生：平成20年2月29日（金）千葉校舎教養棟第5教室

### 第266回大学院セミナー開催

平成20年3月3日(月)午後6時より千葉校舎第3教室において、第266回大学院セミナーが開催された。今回はボストン大学ゴールドマンスクールオブデンタルメディスンPeriodontology and Oral Biology科Albert M. Price臨床准教授を講師にお迎えし、「Orthodontics: Preparing for the future - Elements of stability needed for the adult occlusion - 」と題する講演をうかがった。矯正歯科医は成長発育よる変化の旺盛な若年者の治療においてその変化の対応に専念しているが、成人矯正においては変化が少ないが歯周病との深い関わりを避けて通れない。矯正治療を始めるにあたって、審美、機能、パラファンクションを考慮しなければならず、これらの力と力の分布分析をすることがひいては歯周組織の安定性に繋がるものであると述べられ、矯正歯科医局員をはじめ保存科、インプラント科からの出席もあり、大変有意義なセミナーとなった。



講演されるPrice臨床准教授：平成20年3月3日(月)千葉校舎第3教室

### 一般入学試験 期実施

平成20年度一般入学試験(期)が、平成20年3月8日(土)午前9時から水道橋校舎において実施された。約15名の募集人員に対し、89名の志願者が集まった。英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接が実施され、合格者には3月11日(火)に合格通知が発送された。

### 第5回試験問題作成に関するワークショップ開催

平成20年3月21日(金)、22日(土)、クロスウェーブ船橋において、第5回試験問題作成に関するワークショップが開催された。本ワークショップは、文部科学省の平成17年度特色ある大学教育支援プ

ログラムで選定された本学の取組「IT環境でのグローバルエバリュエーション」を更に充実・発展させる事業のひとつとして実施するものである。

今回は、本学の基礎、臨床教育職員30名を対象とし、歯科医学における基本的な知識の理解と総合的な診断能力・問題解決力を総括的に評価するための多肢選択式試験問題作成のスキルアップ、更にその試験問題の重要性に配慮し厳正に管理する能力の向上を目指し、個人演習および5グループによるブラッシュアップ等の実践的なワークショップを行った。参加した受講者からは、「多くの人と問題をブラッシュアップすることによって問題の質の向上を実感できた」「問題作成のための基本事項と留意点が分かった」等の感想が挙げられた。

最後に、受講者に修了証書が授与され2日間の日程を終了した。本ワークショップにより、教員個々の問題作成・管理能力の向上を図り、ひいては、本学における学生の公正な学習評価のより一層の充実を目指している。



グループ討議中の受講者：平成20年3月21日(金)クロスウェーブ船橋

### 平成19年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会開催

平成20年2月25日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成19年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会が開催された。本会は、1年間の臨床研修の総括として、臨床研修歯科医自らが治療を行った症例について学会形式で報告するものである。第5回目となる今回は、19名の臨床研修歯科医全員が口頭発表による症例報告を行った。

当日は、院内の教職員をはじめ、協力型研修施設の指導医の先生方にもご出席いただき、ご

指導いただいた臨床研修歯科医の発表に対して貴重なコメントをいただくことができた。臨床研修歯科医は、それぞれ極めて真摯な態度で発表を行い、それに応じて活発な質疑応答がなされ、全ての参加者にとって非常に有意義な報告会となった。



発表風景：平成20年2月25日（月）水道橋病院4階待合ホール

#### 平成19年度東京歯科大学臨床研修ワークショップ開催

平成20年3月27日（木）午前9時より平成19年度東京歯科大学臨床研修ワークショップが開催された。ワークショップは毎年3月に1年次の臨床研修歯科医を対象として実施され、今回は千葉病院、市川総合病院ならびに水道橋病院の三病院合同でワークショップを行った。

研修歯科医総勢109名が12グループに分かれて、「平成19年度歯科医師臨床研修について」をテーマとし、研修歯科医の立場から各病院の臨床研修プログラムの問題点を抽出し、問題点への対応策を考察する一方、A・I理論を用いてプログラムの「強み」に着目する目的として開催された。ワークショップの運営委員は角田正健臨床研修委員長、高橋俊之臨床研修副委員長、外木守雄臨床研修副委員長、古澤成博臨床研修副委員長、総合診療科の山倉大紀講師、杉山利子講師、近藤祥弘講師、野呂明夫講師、保存修復学講座の亀山敦史助教が担当した。

ワークショップは石井拓男千葉病院長の挨拶、高橋俊之臨床研修副委員長の概要説明後、各グループがテーマについての問題の抽出、問題点への対応ならびにA・I理論の作業を行った後に発表および質疑応答を行った。質疑では活発な意見交換が行われ、すべての作業が終了した後、

角田臨床研修委員長より総評があり、午後5時30分にワークショップは終了した。



三病院の研修歯科医に対して挨拶をする石井千葉病院長：平成20年3月27日（木）千葉校舎実習講義室



臨床研修プログラムの問題点の抽出を行う研修歯科医：平成20年3月27日（木）千葉校舎第1セミナー室

#### 第72回歯科医学教育セミナー開催

平成20年3月24日（月）午後6時より千葉校舎第2教室において、第72回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新しい国家試験制度を受けた臨床教育」と題し、一戸達也臨床教育委員長より説明が行われた。

まずはじめに、現在の歯科医師養成に係る流れとして、共用試験及び登院後の臨床実習、そして国家試験合格後の歯科医師臨床研修の位置づけ等について説明があった。また、より質の高い歯科医師を養成するため、平成19年3月に歯学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂され、歯科医師に対する医療倫理等の基本的な資質、地域医療、医療安全、生涯学習への準備及び持続的な研究心の養成等の内容が盛り込まれた旨説明があった。

また、歯科医師国家試験について、平成19年12月に歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書が提出され、今後、出題基準、出題方法、合



格基準等が変更される旨説明があった。過去2年間の国家試験結果について、国公立大学間の結果順位から見ると本学は上位にあるが、試験結果を分析すると必ずしも楽観視できない状況にあり、今後、気を引き締めて対策を立てていかねばならない旨説明があった。国家試験に必要な知識を教えることだけでなく、学生が個々の科目で得た知識を有機的に連携させ、自ら考えることにより答えを導き出せるようにしていきたい旨説明があった。

最後に、これからの臨床実習における取り組みとして、見学期間の有効活用、同一患者を継続して診療することによる総合診療計画の立案能力の向上、学生の習熟レベルに合わせたプログラムの実施、医局員側の教育力向上を推進し、臨床推論力をより向上させていきたい旨説明があった。当日は100名を超える参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する一戸臨床教育委員長：平成20年3月24日(月)、千葉校舎第2教室

#### 第101回歯科医師国家試験結果

第101回歯科医師国家試験は、平成20年2月9日(土)、10日(日)の両日に実施され、3月27日(木)に合格者が発表された。今回は、全国で3,295名が受験し2,269名が合格。今回の試験の合格率(全国平均)は68.9%となっており、昨年と比べると5%以上下回る厳しい試験結果となった。

その中で、本学からは平成20年3月卒業の第113期生126名、既卒者13名の計139名が受験、見事119名が合格した。合格率は85.6%(新卒者のみは86.5%)で、私立歯科大学・歯学部17校の中の合格率は1位であり、国公立大学を含めた総合順位でも第4位と健闘し、改めて歯大トップクラ

スの実力を証明したと言える。

#### 平成19年度臨床研修修了式開催

平成19年度の臨床研修修了式が千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の三病院でそれぞれ行われた。

千葉病院では、平成20年3月28日(金)午後1時30分より千葉校舎実習講義棟3階歯科臨床研修医室において、平成19年度歯科医師臨床研修修了式が行われた。式は高橋俊之臨床研修副委員長の開式の辞に始まり、石井拓男千葉病院長から修了者を代表して、石岡みずき臨床研修歯科医に修了証が授与された。その後、石井千葉病院長による訓辞、角田正健臨床研修委員長の挨拶が行われ、修了式は無事閉式した。

市川総合病院では、平成20年3月24日(月)午前8時30分から市川総合病院第2・3会議室において、医科と歯科の臨床研修医修了式が合同で行われた。式は司会の間部克善事務部長の開式の辞に始まり、安藤暢敬市川総合病院長から研修修了者(医科7名、歯科8名)に修了証が授与された。引き続き安藤市川総合病院長の訓辞が行われ、その後西田次郎研修管理委員長、山根源之副病院長(歯科研修管理委員長)、外木守雄歯科研修管理副委員長の挨拶があり、修了式を閉式した。

水道橋病院では、平成20年3月28日(金)午前9時より、水道橋校舎第1・2会議室で行われた。式は司会の古澤成博教育主任の開式の辞に続いて、柿澤卓水道橋病院長より19名の研修修了者一人ひとりに修了証が授与された。引き続き、柿澤水道橋病院長より訓辞をいただいた。更に、2月25日(月)に開催された「平成19年度臨床研修歯科医症例報告会」の優秀賞3名を発表し、柿澤水道橋病院長より受賞者に記念の楯が授与され、修了式を閉式した。



挨拶する角田臨床研修委員長：平成20年3月28日(金)  
千葉校舎歯科臨床研修医室



臨床研修歯科医集合写真：平成20年3月28日(金) 水道橋校舎第1・2会議室

## 海外交流

台北医学大学医療管理学科大学院生等来校

台湾の台北医学大学から同大学附属病院長及び医療管理学科の大学院生等関係者40名が、平成20年2月26日(火)に千葉校舎と市川総合病院に来校した。

一行は、呉志雄病院長、医療管理学科の教員2名、大学院生29名、学部学生3名、卒業生の5名。本学の姉妹校である台北医学大学口腔医学院と年々人事交流等が深まってきている中、今回の訪問の主な目的は、来訪者が本学の附属病院見

学や病院管理運営等のレクチャーを受けることにより、医療管理分野での専門知識を習得し人に奉仕する積極的な態度や人間性を高めることである。

一行は、2月26日(火)午前9時に来校し、千葉校舎第1会議室において、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、井出吉信副学長、石井拓男千葉病院長、永井隆夫事務局長 他役職者、事務系関係者等が出席し、井上 孝国際渉外部長の司会により歓迎式が開催された。

まず、金子学長から「台北医学大学から多くの方が本学の見学にお越しいただき大変感謝しております。本日は千葉校舎及び市川総合病院を充分に見学していただき、今後も両校の交流をより一層深めていきたいと考えております。」と歓迎の挨拶を述べた。台北医学大学からは、呉病院長より、「東京歯科大学の歓迎に感謝申し上げますとともに、当病院を見学させていただき、今後の病院運営に参考にさせていただきたいと思っております。」と挨拶が述べられた。

記念撮影後、両校の概要説明があり、呉病院長から台北医学大学の概要説明、井上国際渉外部長(千葉病院副病院長)から千葉病院の概要説明、内山健志教授からは、東京歯科大学の海外での医療活動についてのプレゼンテーションがあった。その後、約1時間の所要時間で3グループに分かれて千葉病院の外来、病棟、コメディカル部門、医事課等を見学した。昼食後、12時半ごろ、千葉校舎を出発し市川総合病院の見学に向かった。

市川総合病院では、安藤暢敏市川総合病院長の挨拶、呉病院長の挨拶に続き、間部克善市川総合病院事務部長により市川総合病院の概要説明が行われた。その後、森下鉄夫副病院長、外木守雄准教授をはじめとした対応により質疑応答が行われた。その後、2グループに分かれて市川総合病院の外来、病棟等を見学した。1時間弱の予定であったが、予定時間を大幅に過ぎてしまうほど熱心な質問が相次ぎ、午後4時半頃、市川総合病院を出発した。



歓迎式記念撮影：平成20年2月26日(火) 千葉校舎第1会議室



千葉病院を見学する来校者：平成20年2月26日(火)、千葉病院1階



歓迎の挨拶をする金子学長：平成20年2月26日(火) 千葉校舎第1会議室



呉 台北医学大学附属病院長(左)の概要説明を聴く安藤市川総合病院長他役職者：平成20年2月26日(火) 市川総合病院講堂

## 国際渉外部レポート

韓国・延世大学校歯科大学より見学生来校

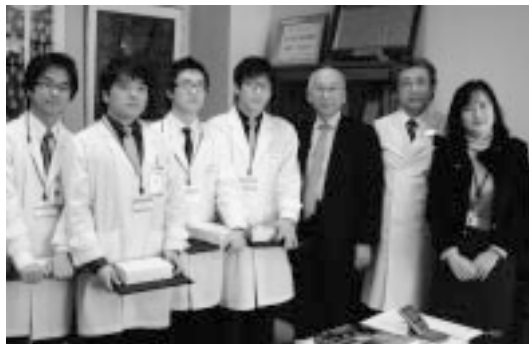
平成20年1月7日(月)より1月25日(金)までの3週間、延世大学校歯科大学の5年生、Cho Jin-se君、Son Kwang-il君、Pyo Se-wook君、Lee Chang-min君の4名が、延世大学のElective Study Programに参加し、見学生として来校した。

延世大学が毎年行っているこのプログラムは、歯学部5年生を対象に、国際的な視野を広げる目的で、特色ある歯科機関を見学する機会を与えるという研修制度である。今回、東京歯科大学は、初の試みとして急遽受け入れを決定した。受け入れにご協力いただいた各講座をはじめ、皆様に心より感謝申し上げたい。

受け入れにあたっては、基礎系・臨床系のほぼすべての講座に、講義や実習を半日ずつ担当していただき、週末を除く毎日、各講座を見学するというカリキュラムを準備した。初日となる1月7日には、井上孝国際渉外部長、佐藤亨学生部長によるオリエンテーションを行ったが、学生たちは、その充実した内容に驚きを示していた。

1月17日、18日、21日、24日の午後は、保存科、補綴科、口腔外科、インプラント科の4科の臨床実習見学を行った。1月16日には武道始めを見学し、引き続き行われた鏡開きでは、一人ひとり餅つきを体験。伝統的な日本の文化を楽しんだ。最終日の1月25日には金子学長と面会し、Certificateを受領した。

来年度以降の予定はまだ決まっていないが、こうした交流は双方にとって良い刺激となると



金子学長よりCertificate受領後、学長室にて記念撮影：  
平成20年1月25日(金) 千葉校舎学長室

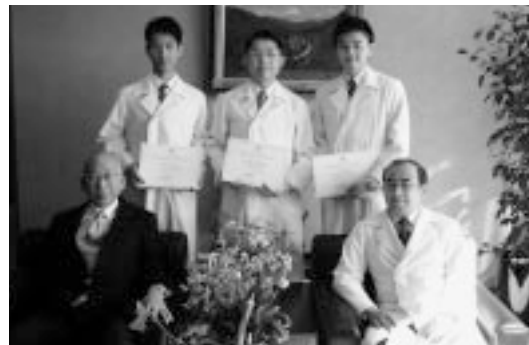
の声もあるため、今後も各講座にご協力いただき、受け入れ体制を整えていきたい。

香港大学より見学生来校

平成20年2月18日(月)より2月21日(木)までの4日間、香港大学歯学部5年生、Edward TSE(シェ)、Mike NG(ウー)、James IP(イエ)の3名が、香港大学の選択学習(Elective Study)の一環として、東京歯科大学を見学するため来校した。

彼らは18日午前、本校に到着し、千葉病院および学内を見学したのち、市川宿舎に宿泊。翌19日は、午前と午後にわたり、橋本正次教授に特別に準備していただいた法人類学セミナーに参加した。20日は市川総合病院・口腔外科にて外来見学を行い、21日は、金子譲学長と面会しCertificateを受領したのち、千葉病院・口腔外科にて手術見学をした。

今後は各部署と連携してカリキュラムを整え、留学生の獲得につなげていきたい。



金子学長よりCertificateを受領した香港大学の見学生：  
平成20年2月21日(木) 千葉校舎学長室

学長主催留学生懇親会開催

平成20年3月5日(水)午後6時より、幕張のホテル・ザ・マンハッタンにて、第11回学長主催留学生懇親会が開催された。今年度は、有床義歯補綴学講座において学位を取得されたMarlene Poveda先生(ベネズエラ)と、日中笹川医学研究者として口腔外科学講座に1年間に在籍されていた崔念暉先生(中華人民共和国)同じく口腔外科学講座に1年間、研究生として在籍されていた高野Johnny秀典先生(ブラジル)が、年度末で帰国

予定のため、送別会も兼ねて行われた。

本会には、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、柳澤孝彰大学院研究科長をはじめ、外国人留学生・研究者が在籍する講座の指導教授、国際渉外部運営委員会の先生方、留学生関連の業務に助力する事務職の方々のほか、臨床検査学研究室に大学院生として在籍するSultan Khan先生(パキスタン)や学部2年次の金 亨俊君(韓国)、台湾からの大学院生である蔡 鵬飛先生(歯科麻酔学)、黄 明裕先生(歯科麻酔学)、柯 文昌先生(口腔外科学)、洪 榮杰先生(臨床検査学)の6カ国9名の留学生を含む、総勢27名が出席した。

当日は、井上 孝国際渉外部長の司会のもと、金子学長および薬師寺副学長にご挨拶を頂き、金子学長から崔先生と高野先生に修了証と記念品が、Poveda先生に記念品が授与された。次いで、出席した留学生の方々が順番にスピーチを行い、本学で学んだことの感想や、指導教授をはじめとする

先生方・職員に対する感謝の気持ちを述べた。その後留学生らは、お世話になった先生方と写真を撮るなど和やかに歓談し、柳澤大学院研究科長が閉会の辞を述べられた。最後に、金子学長を囲み、それぞれの母国の国旗を手にした留学生らと共に、出席者全員で記念撮影を行い、名残を惜しみつつも散会となった。



出席者全員で記念撮影：平成20年3月5日(水)、幕張ホテル・ザ・マンハッタンにて

## 学生会ニュース

### 第113期卒業生謝恩会

第113期卒業生謝恩会は、平成20年3月25日(火)午後6時よりホテルニューオータニ幕張の2階「鶴の間」において盛大に開催された。

司会の木村領太君と仲宗根智実さんの開会の辞により幕を開けた本会は、荒木優介謝恩会実行委員長の挨拶、金子 譲学長、大山萬夫同窓会会長の祝辞、青木栄夫父兄会会長の謝辞の後、青木父兄会会長の発声により出席者一同が声高らかに乾杯し、歓談に入った。少しの間、歓談を楽しんだ後、金子学長よりデンツプライ賞が

三條恵介君、石井百子さんに手渡された。

続いて、6年間に113期生の修学指導を担当した学年・クラス主任並びに副主任の先生方に感謝の花束贈呈が代表学生より行われ、それに応えて、歴代の学年主任を務めた高畑悟郎先生、柳澤孝彰先生、柴原孝彦先生、佐藤 亨先生からそれぞれ卒業生に向けて温かいエールが贈られた。会の後半には、笠原明人副実行委員長より第113期生クラス会の名称が「粹翔会(すいしょうかい)」と発表された。このクラス会名は、113期生全員が「純粋な気持ちを持って翔たいていこう」



来場者へ挨拶する荒木実行委員長：平成20年3月25日(火)、ホテルニューオータニ幕張



お世話になった先生方に花束を贈る卒業生：平成20年3月25日(火)、ホテルニューオータニ幕張

という願いと「水晶のように粒ぞろいの113期生が、キラキラと輝いていけるように」との願いをこめたものであった。

学生と教職員が一体となって、大いに盛り上がった楽しいひと時はあっという間に過ぎ去り、



校歌に恩師への感謝を込めて：平成20年3月25日(火) ホテルニューオータニ幕張



閉会にあたって、来場者への謝辞を述べる青木君：平成20年3月25日(火) ホテルニューオータニ幕張

113期生が同窓会の一員となったことを記念し、金子学長・薬師寺 仁副学長・井出吉信副学長を中心に学年主任・副主任と卒業生全員が壇上へ上がって校歌を斉唱。最後はステージ上に集合した113期生全員の中から、代表で青木一充君が来場して下さった方々に「ありがとうございました」と挨拶、午後8時に閉会となった。

#### 第113期卒業生から大学に卒業記念品贈呈

第113期生からの卒業記念品として、壁掛時計が大学に寄贈された。平成20年3月25日(火)、第113回卒業証書・学位記授与式終了後に行われた記念品贈呈式において、卒業生代表の荒木優介君から金子 譲学長に目録が手渡された。なお、今回贈呈された壁掛時計は講堂内に設置されている。



第113期生記念品：講堂内に設置されている壁掛時計

## 図書館から

### 本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙・奥付に記載されているものに限定)

井上 孝[ほか]著 「それからの裸のインプラント」 デンタルダイヤモンド社 2008

高畑悟郎[ほか]著 「生物学Ⅰ(最新歯科衛生士教本) 医歯薬出版 2008

石井拓男, 岡田真人[ほか]編 「スタンダード社会歯科学」第3版 学建書院 2008

山根源之 編 「診断力ですと」 第4集 デンタルダイヤモンド社 2008

本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のりには、できました

らご寄贈のほどよろしくお願いたします。

### 電子ジャーナルの利用について(2008年)

次の大手出版社の電子ジャーナル(パッケージ)が千葉・市川・水道橋の3キャンパスから利用可能となっている。これらは、PULC(公私立大学図書館コンソーシアム)または、日本医学図書館協会・日本薬学図書館協議会コンソーシアムに参加することにより、契約が可能となった。

・Springer Link(<http://www.springerlink.com/journals/>)

Springer出版グループの電子ジャーナル1258タイトルが閲覧可能。(おおよそ1997年から現在まで)

• ScienceDirect ( <http://www.sciencedirect.com/> )  
Elsevier社の電子ジャーナルのうち、当館で冊子体を購入している65タイトルが、1998年から現在まで閲覧可能。これに加えて、医学分野約460タイトルが2004年以降閲覧可能。

• Blackwell Synergy( <http://www.blackwell-synergy.com/> )  
Blackwell社( 現Wiley-Blackwell社 )発行のSTM( 自然科学・科学技術・医学関連 )の約400タイトルを利用することができる。多数の歯科関係雑誌が含まれている。1997年以降が閲覧可能。

• Wiley Interscience( <http://www3.interscience.wiley.com/cgi-bin/home> )  
Wiley社( 現Wiley-Blackwell社 )発行の医学、薬学を中心とした約200前後のタイトルを利用することができる。概ね1997年以降が閲覧可能。

• **バックファイル** ( <http://www.tdc.ac.jp/lib/jnl/#soja> )  
Springer社、Science Direct( 歯科分野 )、OUP( オックスフォード大学出版局 )のバックファイルが利用可能。

この他に、個別タイトルの電子ジャーナルも多数閲覧可能となっている。上記パッケージも含めた2008年利用可能な電子ジャーナルは図書館ホームページ「電子ジャーナル」項の「当館所蔵フルテキスト( A-to-Z )」より検索・アクセスできる。( 3キャンパス内限定 )

#### 卒業後の図書館の利用について

図書館では同窓生に対して次のようなサービスを通して、診療・研究支援を行なっている。

**図書館の利用**：手続きをすることにより「LIBRARY CARD」( 有効期限：1年。更新可 )を発行。資料の閲覧・貸出、文献複写、文献検索ができる。

**図書**の貸出：直接来館した場合に限り、2冊まで2週間借りることができる。

**複写文献送付サービス**：来館が困難な場合、文献を複写し送付するサービス。申込みは、住所・氏名・電話番号・FAX番号・複写を希望する文献( 資料名、巻・号・年、頁、著者名、論題 )・卒業年および入手目的を明記の上、FAX( 043-270-3578 )またはホームページ「お問い合わせ」から申込み。

**文献検索サービス**：希望される内容に関する文献について、代行して検索するサービス。詳しくは、ホームページ「図書館代行検索申込み」を参照。

## 大学史料室から

飯田外茂男先生より資料の寄贈

平成20年2月、本学同窓の飯田外茂男先生( 東歯昭和26年卒：いそむ会 )より、ご尊父の故飯田武雄先生( 東京歯科医専、大正5年卒 )の実習ノート、本学卒業証書、歯科医師免許証、診療機器、大学との医療連携に伴う書類等の資料ならびに書籍の数々が、大学史料室および図書館に寄贈された。

これらの資料の中で、特に実習簿は、大正時代の本学の歯科医学教育を検証する上で貴重な資料であり、また、昭和初期の開業医から大学への紹介患者に対し、大学からの診断、所見、処置報告が記載された書簡の数々は、既にこの時代に本学附属病院が二次医療機関として開業医との医療連携が構築されていたことを物語る貴重な資料といえる。これらの資料は、今後、史料

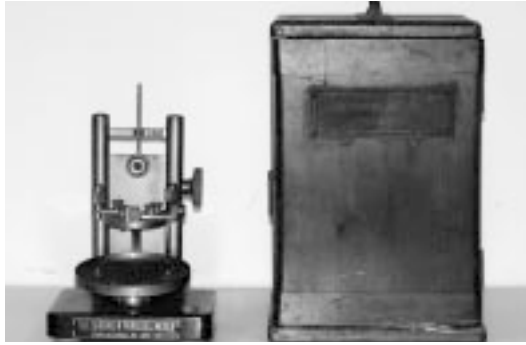


飯田先生：平成20年2月、ご自宅にて



大森歯科医院からの紹介患者に対する本学病院からの「診断、所見、処置報告書類」( 昭和7年8月16日付 ) 病院長 花澤 鼎先生、口腔外科部長 遠藤至六郎先生

室において大切に保管するとともに、本学歴史を編纂して行く上でも有効に活用させていただきたい。



飯田先生より寄贈された診療機器のひとつ

血脇守之助先生の書(掛軸)の寄贈を受ける  
神奈川県相模原市在住の高橋司好氏から、ご尊父 故 高橋武二先生(東京歯科医専、大正元年卒)が所蔵されていた血脇守之助先生の書(掛軸)を、平成20年2月26日に大学史料室にご寄贈いただいた。この書は、血脇先生が宮崎県都城市を訪問された際に、武二氏のために書かれたもので、「竜田川無理に渡れば紅葉が散るし、渡たらにや聞かれぬ鹿の声」とあり、都々逸を引用して激励の気持ちを表されたと思われる。大変貴重な史料として大切に保管し、広く閲覧に供していきたい。



高橋司好氏寄贈の血脇先生筆の掛軸

## 史料室収蔵品紹介



“熊さん”こと故島根熊吉さんの写真。本学の小使いとして16年余り勤務し大正11年8月23日に享年68で逝去された。同年9月16日に第一教室で告別式が行われ、これが本学最初の学校葬となった。

## 史料室展示風景





## 歯科衛生士専門学校ニュース

### 平成20年度一般入学試験実施

平成20年2月3日(日)東京歯科大学歯科衛生士専門学校的一般入学試験が実施され、午前に学科試験(英語・数学・国語)が、午後に面接試験が行われた。4日(月)には入試選考委員会が開催され、合否の結果が本人宛に郵送された。

本年度の志願者数は、高等学校長推薦48名、社会人特別選抜5名、一般入試25名の計78名で、昨年に比べるとやや減少しており、18歳人口の継続的な減少とそれともなう大学進学率の増加が反映していると考えられた。レベルの高い歯科衛生士教育を行うのに必要な優秀な学生の継続的な確保のためには、本年度から始めた社会人特別選抜枠の設定など、新たな試みを模索することが急務であり、歯科衛生士専門学校にとっても、厳しい情勢が続くものと思われた。

### 第17回歯科衛生士試験実施

平成20年3月2日(日)第17回歯科衛生士試験が全国10か所の試験場で一斉に実施された。本校の卒業予定者45名全員が、東京試験場の明治大学駿河台キャンパスにて受験した。試験は4肢択一および4肢択二のマークシート方式で行われ、午前100問(3時間)、午後100問(3時間)の計200問が出題され、午後4時に終了した。結果は3月25日(火)午後2時に厚生労働省ならびに歯科医療研修振興財団にて発表され、本校の受験者45名は全員合格した。全国の受験者総数6,361名のうち、合格者は6,106名で、合格率は96.0%であった。受験者数は昨年と比較しておよそ1,000名少なかったが、これは、全国の歯科衛生士養成機関における2年制から3年制への移行過程で卒業生がでないことなどが影響しているとも考えられた。

### 第57回卒業証書授与式

東京歯科大学歯科衛生士専門学校の第57回卒業証書授与式は、平成20年3月14日(金)午後1時より、千葉校舎講堂において厳粛な雰囲気の中で挙行された。

嶋村一郎教務部長の開式の宣言により式は始まり、国歌斉唱、眞木吉信副校長による学事報告の後、下野正基校長から45名の57期卒業生ひとりひとりが緊張の面持ちで卒業証書を授与された。続く褒賞授与では、成績がもっとも優秀であった蓮見亜耶さんに学校長賞が、川木裕未、北原蓉子、関矢寛子、高橋舞、徳富理英、山崎詩織、渡邊祐美さんに優等賞が授与された。さらに、3年間無遅刻・無欠席でよく勉学に励んだことを讃え、石川智恵、伊藤真奈美、川木祐未、木村麻美、四関友美、関矢寛子、高森ひとみ、松尾佳代子、渡邊祐美さんに皆勤賞が、また、浅野祥代さんはじめ17名に精勤賞が授与された。

下野校長の告辞に続き、来賓としてご臨席頂いた熱田俊之助東京歯科大学常務理事より井上裕理事長の御祝辞を代読戴くと共に、金子譲東京歯科大学学長、中井麗子東京歯科大学歯科衛生



告辞を述べる下野校長：平成20年3月14日(金)、千葉校舎講堂



校長より卒業証書を授与される卒業生：平成20年3月14日(金)、千葉校舎講堂

士専門学校同窓会会長からも祝辞をいただいた。在校生代表の菅野 香さんから送辞を受けた後、卒業生の代表として蓮見亜耶さんが3年間の思いを込めて答辞を述べた。「衛生士学校校歌」と「蛍の光」を斉唱し、こうして東京歯科大学歯科衛生士専門学校の第57回卒業証書授与式は終了し、卒業生たちは歯科界へと巣立っていった。

引き続き行われた記念品贈呈式では、中井同窓会会長から袱紗が、在校生からはフォトフレーム



答辞を述べる卒業生代表：平成20年3月14日（金）千葉校舎講堂

とお花が卒業生に贈られ、卒業生からは後輩たちのためにシューブラックとダストボックスが学校へ贈呈された。最後に、3年間一緒に学んだ仲間と共に、恩師を囲んで卒業記念の集合写真撮影が行われすべての行事が終了した。



恩師を囲んで卒業記念の集合写真：平成20年3月14日（金）千葉校舎講堂



謝恩会での記念撮影：平成20年3月14日（金）ホテルスプリングス幕張

## 学事報告

東京歯科大学歯科衛生士専門学校  
副校長 眞木 吉信

現在、本校に在籍する学生の数は、135名で、これに対し教授の任にあたる教員の数は、125名であります。

本日、第57回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、45名であります。これを本校創立以来の卒業生に合わせますと、総数2,066名となります。

平成20年3月14日

## 告 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校  
校 長 下野 正基

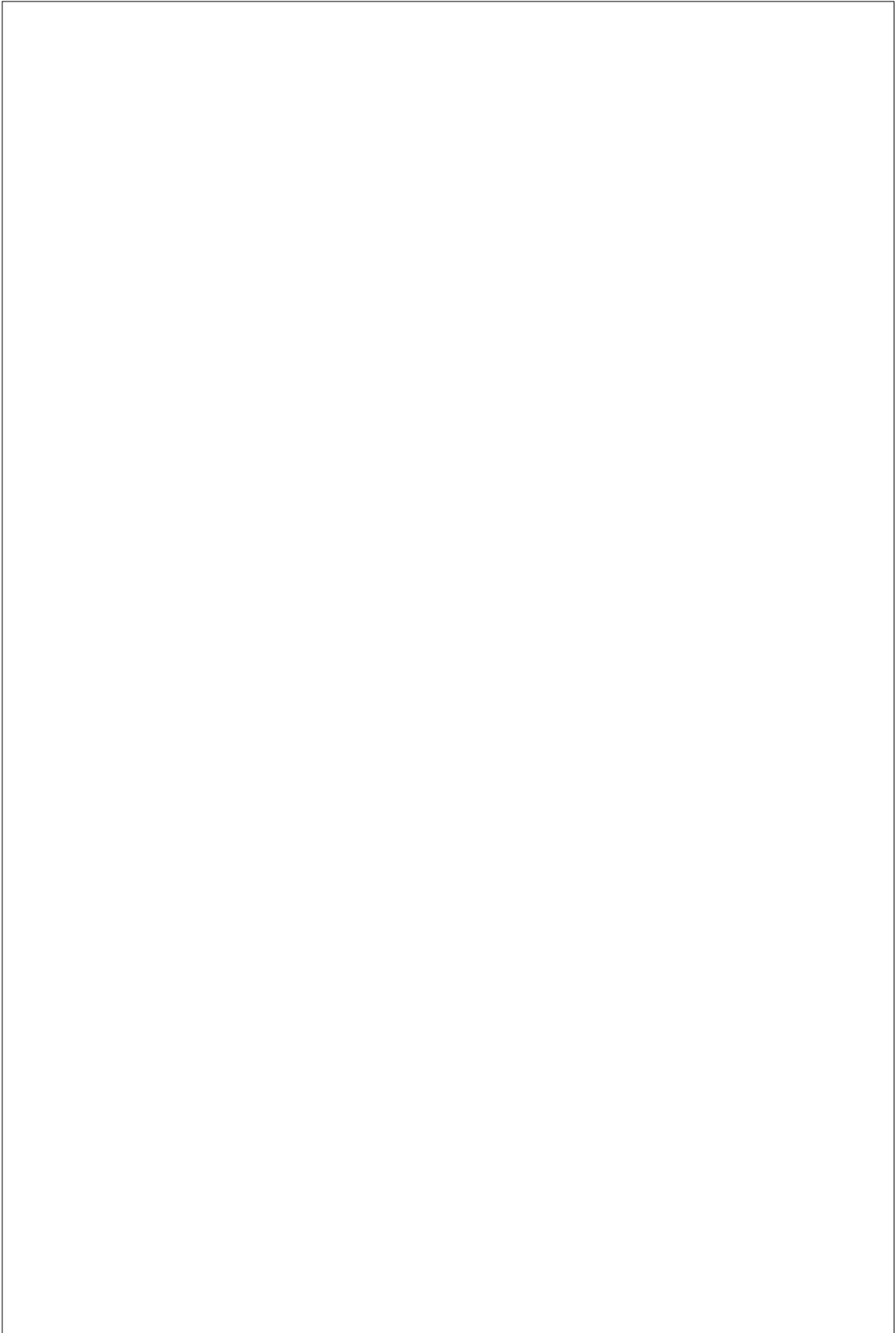
中庭の緋寒桜の花も咲き、まさに春の訪れを全身に感じる本日、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多数のご来賓をお迎えして、ここに第五十七回卒業証書授与式を挙行致しますことをご臨席の皆様とともに心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。卒業証書を手にして、感慨も一入のことと思います。また、卒業生の皆さんを物心両面から支えてこられたご両親はじめご家族の皆様、おめでとうございます。本校の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

口腔保健の維持・増進の担い手である歯科衛生士となるために、大きな希望を抱いて本校に入学された皆さんは、恵まれた環境のもとに、三年間にわたって、最新の歯科医学・医療に関する知識と技能、豊かな教養と知性を身につけ、そして素晴らしい友情を育てられました。本日ここに本校を巣立つことになりました。皆さんのこれまでの勉学の成果は、かならずや歯科衛生士試験全員合格という輝かしい結果として表れることでしょう。

さて、我が国の人口の急速な少子・高齢化の中で、健康の保持、増進についての国民の関心はきわめて高くなってきており、これに対応した歯科保健・医療の充実が求められています。これからの歯科衛生士は歯科医療の分野のみならず、福祉・介護の分野においても、口腔ケアと全身疾患との関連に立脚した口腔保健学を積極的に実践しなければなりません。このように歯科衛生士の活躍の場はますます広がり、この職業を選択された卒業生の皆さんへの期待もまた、さらに大きくなるものと予測されます。本校の三年間の課程を終えた皆さんは、このような社会の要請に十分応えることのできる、医療人としての資質を修得されていると思います。しかしながら、日々進歩する歯科保健・医療の分野で活躍するためには、常に新たな知識の獲得と技能の向上に努めることが大切です。医療に携わる者の心構えとして生涯、自分自身の資質向上に努めて頂きたいと思います。

そのためには、「学ぶ心」を忘れないことが大切です。国民的作家として有名な吉川英治は「われ以外皆わが師」、自分以外のものは皆自分の先生であるとしています。また経営の神様といわれた松下幸之助は「学ぶ心さえあれば、万物すべてこれわが師である。語らぬ石、流れる雲、つまりはこの広い宇宙、この人間の長い歴史、どんな小さなことにでも、宇宙の摂理、自然の理法がひそかに脈づいているのである。そしてまた、人間の尊い知恵と体験がにじんでいるのである。これらのすべてに学びたい。」と著しています。どうか卒業生の皆さんは、自分以外のものは皆自分の先生であるという謙虚な「学ぶ心」を持ち続け、一日一日を大切に、健康で明るく、心豊かな人生を歩んで頂きたいと思います。そして、歯科衛生士として医療・保健・福祉の場で大いに活躍されることを心よりお祈りして、告辞といたします。



## 人物往来

### 国内見学者来校

#### 千葉校舎・千葉病院

太陽歯科衛生士専門学校(学生80名、教員3名)

平成20年2月6日(水)口腔衛生学基礎実習

さいたま柔整専門学校(学生115名、教員5名)

平成20年2月7日(木)解剖標本室、解剖実習見学

日本医科学衛生福祉専門学校(学生65名、教員5名)

平成20年2月14日(木)解剖実習見学

藤リハビリテーション学院(学生59名、教員2名)

平成20年2月18日(月)~26日(火)解剖学見学、解剖実習

国際医療福祉専門学校(学生44名、教員3名)

平成20年2月27日(水)~29日(金)解剖実習見学

八千代リハビリテーション学院(学生177名、スタッフ6名)

平成20年3月3日(月)~6日(木)解剖実習室、解剖標本室見学

東京医療専門学校(学生35名、教員1名)

平成20年3月11日(火)~14日(金)解剖実習見学

千葉医療福祉専門学校(学生70名、教員2名)

平成20年3月24日(月)~27日(木)解剖実習

#### 市川総合病院

東京医学技術専門学校(学生5名、教員1名)

平成20年2月21日(木)病院見学

亀田クリニック(職員3名)

平成20年2月25日(月)病院見学

都健幸会クリニック(職員1名)

平成20年3月7日(金)歯科・口腔外科診療見学

太陽歯科衛生士専門学校(教員4名)

平成20年3月26日(水)病院見学

### 海外出張

佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴)

International Congress of Oral Implantologistsのミーティング出席のため、平成20年2月6日(水)から9日(土)まで、アメリカ・ラスベガスへ出張。

篠崎尚史センター長(市病・角膜センター)

Eye-Bank for Sight Restoration及び国連訪問のため、平成20年2月7日(木)から12日(火)まで、アメリカ・ニューヨークへ出張。

高市真之大学院生(市病・オーラルメディスン・口腔外科)

Gordon Research Conferences Craniofacial Morphogenesis and Tissue Regenerationで発表のため、平成20年2月9日(土)から17日(日)まで、イタリア・ルッカへ出張。

内山健志教授(口腔外科)

4th International Congress of the Iranian Society of Oral and Maxillofacial Surgeonsで招待講演のため、平成20年2月18日(月)から25日(月)まで、イラン・テヘランへ出張。

阿部伸一准教授(解剖)

台北医学大学口腔医学院において「Implantology(第5学年)」のカリキュラム作成打ち合わせのため、及び第1回の解剖実習に参加するため、そして第22回台北歯科医学会のシンポジウムにおいてシンポジストとして講演を行うため、平成20年2月22日(金)から26日(火)まで、台湾・台北へ出張。

松坂賢一准教授(臨床検査)

Tumor Suppressors and Stem Cell Biology, KEYSTONE SYMPOSIAに出席のため、平成20年2月25日(月)から3月2日(日)まで、カナダ・バンクーバーへ出張。

篠崎尚史センター長(市病・角膜センター)

国立熱傷センター及び、ハノイ医科大学、ORBIS本部視察のため、平成20年3月2日(日)から11日(火)まで、ベトナム・ホーチミン及びハノイへ出張。

渡邊 裕講師、花上伸明助教(市病・オーラルメディスン・口腔外科)

16th Annual Dysphagia Research Society Meeting及びSpecial Pre Conferenceへ参加及び発表のため、平成20年3月3日(月)から10日(月)まで、アメリカ・チャールストンへ出張。

井上 孝教授(臨床検査)

FDI Education Committee meetingに出席のため、平成20年3月9日(日)から13日(木)まで、フランス・フェルネボルテルへ出張。

笠原正貴助教(水病・歯科麻酔科)

ミャンマーにおける口唇口蓋裂手術の医療援

助のため、平成20年3月16日(日)から31日(月)まで、ミャンマー・ヤンゴン及びマンダレーへ出張。

坂本輝雄講師、石井武展助教(歯科矯正) 6th Asian Pacific Orthodontic Conferenceに参加及び発表のため、平成20年3月26日(水)から31日(月)まで、タイ・バンコクへ出張。

高松 潔教授(市病・産婦人科) 国際閉経学会First Global Summit on menopause related issuesに日本更年期医学会代表として出席するため、平成20年3月28日(金)から31日

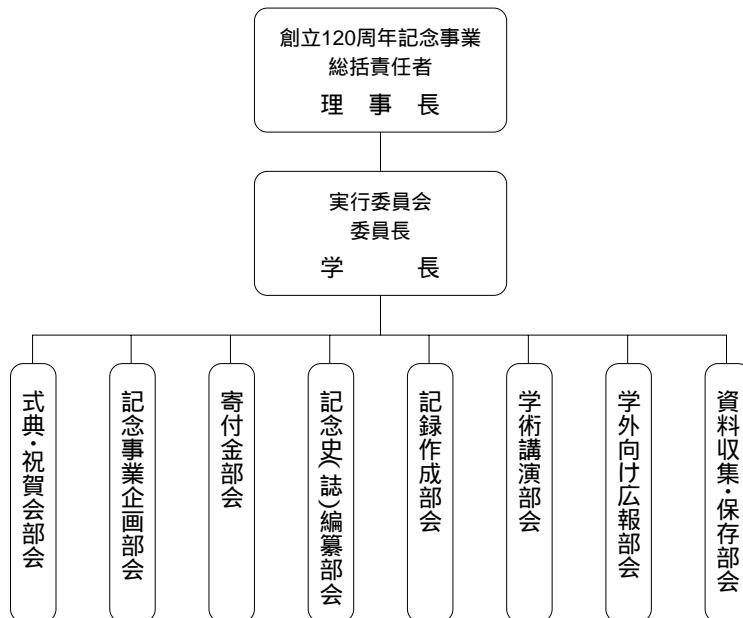
(月)まで、スイス・チューリッヒへ出張。 武井 泉教授(市病・糖尿病内分泌センター) 7th International Diabetes Federation Western Pacific Regions Congressで発表のため、平成20年3月29日(土)から4月4日(金)まで、ニュージーランド・ウェリントンへ出張。

宮田量平助教(市病・外科) 米国肝胆膵外科学会で発表のため、平成20年3月27日(木)から4月1日(火)まで、アメリカ・フォートローダーデールへ出張。

## 創立120周年記念事業

創立120周年記念事業 委員会・部会組織図

創立120周年記念事業実行委員会において組織された各部会をご紹介します。今後は、同実行委員会、各部会等において、同窓会、父兄会の協力のもと記念事業の具体的な計画が企画、検討されることとなっております。



# 大学日誌

平成20年2月

- 1(金) 省エネルギーの日・防災安全自主点検日  
 2(土) 一般入学試験(期)  
 3(日) 歯科衛生士専門学校一般入学試験  
 4(月) 歯科衛生士専門学校一般入学選考委員会  
 教職員研修会(水病)  
 5(火) 講座主任教授会(臨時)  
 一般入学試験(期)合格発表  
 看護部運営会議(市病)  
 6(水) リスクマネジメント部会  
 ICT会議  
 口腔健康臨床科学講座会(水病)  
 7(木) 4年生共用試験(CBT)  
 1・2・3年生後期定期試験(～15日)  
 千葉校舎課長会  
 予算委員会  
 8(金) 4年生後期定期試験(～18日)  
 大学院事務連絡会  
 CPR + AED講習会(市病)  
 9(土) 第101回歯科医師国家試験(～10日)  
 13(水) 臨床教授連絡会  
 講座主任教授会  
 人事委員会  
 歯科衛生士専門学校1・2年生後期試験  
 (～20日)  
 歯科衛生士専門学校教員会  
 ICU運営委員会(市病)  
 リスクマネジメント部会(水病)  
 薬事委員会(水病)  
 医薬品安全管理委員会(水病)  
 14(木) 基礎教授連絡会  
 大学院運営委員会  
 大学院研究科委員会  
 予算事務打合せ会  
 医療安全管理委員会(市病)  
 薬事委員会(市病)  
 手術室運営委員会(市病)  
 15(金) 環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処  
 理日  
 感染予防指導チーム委員会(水病)  
 16(土) 大学院入学試験(期)

- 18(月) 2年生総合学力試験  
 病院運営会議  
 個人情報保護委員会  
 医療安全管理委員会  
 感染予防対策委員会(ICC)  
 臨床教育委員会  
 医局長会  
 19(火) 3年生総合学力試験  
 大学院運営委員会(臨時)  
 教養科目協議会  
 看護部運営会議(市病)  
 院内褥瘡対策委員会(市病)  
 20(水) 4年生総合学力試験  
 機器等安全自主点検日  
 口腔外科改革委員会(水病)  
 医療安全管理委員会(水病)  
 感染予防対策委員会(水病)  
 個人情報保護委員会(水病)  
 21(木) 一般入学試験(期)願書受付開始(～  
 3/5)  
 千葉校舎課長会  
 業務連絡会  
 先進医療委員会  
 第264回大学院セミナー  
 部長会(市病)  
 管理診療委員会(市病)  
 教職員研修会(水病)  
 科長会(水病)  
 22(金) 大学院入学試験(期)合格発表  
 クリティカルパス委員会(市病)  
 理事会(法人)  
 社保委員会(水病)  
 23(土) 4年生共用試験(OSCE)前日準備等  
 24(日) 4年生共用試験(OSCE)  
 25(月) 公認会計士監査(～29日)  
 医療連携委員会  
 第71回歯科医学教育セミナー  
 平成19年度臨床研修歯科医症例報告会  
 (水病)  
 26(火) 1・2・3・4年生後期追・再試験(～29日)  
 データ管理者会議

26(火)	カルテ整備委員会 診療記録管理委員会 第265回大学院セミナー 歯科病院における電子カルテの現状に ついての講演会	10(月)	臨床教育委員会 医局長会 医療安全研修会 歯科技工室改革委員会(水病)
27(水)	情報システム管理委員会 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病) 院内情報システム検討委員会(水病)	11(火)	臨床教授連絡会 講座主任教授会 全体教授会(臨時) 人事委員会
28(木)	学生部(課)事務連絡会 院内感染症予防対策委員会(市病)	12(水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 救急委員会(市病) リスクマネジメント部会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病) 薬事委員会(水病)
29(金)	平成19年度HRCワークショップ	13(木)	業務連絡会 医療安全管理委員会(市病) 院内感染症予防対策委員会(市病)
平成20年3月			
1(土)	大学院入学試験(口腔がん専門医養成 コース)願書受付開始(～18日) 研修管理委員会	14(金)	教養科目協議会 第57回歯科衛生士専門学校卒業証書授 与式 CPR + AED講習会(市病) 感染予防指導チーム委員会(水病)
3(月)	2年生総合学力追・再試験 4年生共用試験(CBT)追・再試験 輸血療法委員会 臨床検査部運営委員会 第266回大学院セミナー 省エネルギーの日・防災安全自主点検日 矯正歯科改革委員会(水病)	17(月)	給食委員会 医療連携委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日
4(火)	3・4年生総合学力追・再試験 看護部運営会議(市病)	18(火)	健康管理委員会 学生部(課)事務連絡会 講座主任教授会(臨時) 人事委員会 歯科衛生士専門学校教員会 看護部運営会議(市病)
5(水)	一般入学試験(期)願書受付締切 リスクマネジメント部会 ICT会議 教務部(課)事務連絡会 千葉校舎課長会 大学院事務連絡会 口腔健康臨床科学講座会(水病)	19(水)	図書委員会 検査室委員会(市病)
6(木)	防災訓練 歯科衛生士専門学校臨地実習指導者連 絡会 治験審査・倫理委員会(市病) 研修管理委員会(水病)	21(金)	第5回試験問題作成に関するワークショッ プ(於:船橋クロスウェーブ)～22日) 機器等安全自主点検日 理事会(法人) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 科長会(水病)
7(金)	ICT委員会(市病)		
8(土)	一般入学試験(期)(於:水道橋校舎)		
10(月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC)		





平成20年度 第2・3・4・5学年時間割表

	第2学年					第3学年					第4学年					第5学年					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
前期	9:00~10:25	1	生物 細胞分子	物質の科学	口腔解剖	A医療統計 B科学英語	B生命現象と物質実習	口	微	発生病態学	歯内	口	歯科矯正実習	歯周	リッジ補綴学	小児歯科実習	補綴学	有床義歯	臨床実習	課題講義・臨床複合講義	
	10:35~12:00	2	生物 細胞分子	A科学英語 B歯科医学英語	口腔解剖	物質の科学	A解剖実習	保存修復	A微生物実習 B生理実習	補綴学	病理実習	有床義歯	矯正	口	社	外	歯	局部義歯実習			
	13:00~14:25	3	生理	生物の構造と機能	口腔解剖実習	解剖	A生命現象と物質実習 B解剖実習	衛生	病	理	工	薬理実習	正	歯	放	口	小	歯			
	14:35~16:00	4	A病理医学英語 B医療統計	組織	解剖実習	解剖	英語講読	薬理	A生理実習 B微生物実習	歯科理工実習	生化学	法	歯	内	科	隣接医学 口衛	隣接医学 口衛	歯科医療管理 オーラルメディスン			
	16:10~17:30	5	コミュニケーション学	コミュニケーション学	コミュニケーション学	コミュニケーション学	英語講読	歯科医学	歯科理工実習	生化学	法	歯	内	科	隣接医学 口衛	隣接医学 口衛	歯科医療管理 オーラルメディスン	局部義歯実習			
後期	9:00~10:25	1	口腔生理	歯科臨床概論・コミュニケーション学	A解剖実習 B組織実習	病理	微生物	保存修復	小	歯	補綴学	総論 有床義歯	歯科補綴学	衛生・口衛	矯正	歯内	歯	歯	課題講義	臨床実習	臨床複合講義
	10:35~12:00	2	生理	コミュニケーション学	口腔組織・口腔組織実習	薬	歯	保存修復実習	口	病	補綴学	矯正	歯内	歯	矯正	歯内	歯	歯			
	13:00~14:25	3	生化学	生化学	解剖	理	工	保存修復実習	口	病	補綴学	矯正	歯内	歯	矯正	歯内	歯	歯			
	14:35~16:00	4	薬理	口腔生理	A組織実習 B解剖実習	理	工	保存修復実習	口	病	補綴学	矯正	歯内	歯	矯正	歯内	歯	歯			
	16:10~17:30	5	微生物	微生物	解剖実習	理	工	保存修復実習	口	病	補綴学	矯正	歯内	歯	矯正	歯内	歯	歯			

平成20年度学生数一覽

学年	男	女	計	班 分 け	欠 番	
1年	A	41	24	65	1A: No.1~65 1B: No.71~135	66~70
	B	39	26	65		
		80	50	130		
2年	83	54	137	A班: No.1~69 B班: No.70~137		
3年	90	53	143	A班: No.1~72 B班: No.73~143		
4年	81	50	131	A班: No.1~67 B班: No.68~131		
5年	86	40	126	A班: No.1~32 B班: No.41~72 C班: No.81~111 D班: No.121~151	33~40 73~80 112~120	
6年	89	60	149	A班: No.1~39 B班: No.41~78 C班: No.81~118 D班: No.121~157	8、40、47、79、80 92、119、120	
合計	509	307	816			

## 平成20年度 学年暦

平成20年

4月5日(土) 入学式  
 7日(月) 新入生オリエンテーション・学内見学  
 5年生オリエンテーション・登院器材刻印・検査  
 8日(火) 5年生登院式  
 2・3・4年生オリエンテーション  
 新入生水道橋病院並びに市川総合病院見学  
 9日(水) 1・2・3・4年生前期授業開始  
 16日(水) } 新入生学外セミナー  
 18日(金) }  
 30日(水) } 半学休講日(4/29~5/6連休)  
 5月2日(金) }  
 8日(木) 振替授業(火曜日分)  
 28日(水) 1・4年生健康診断(予定)  
 6月20日(金) 実験動物供養祭(千葉校舎)(3年生)  
 30日(月) 6年生第1回総合学力試験(7月1日(火)まで)  
 7月11日(金) 夏期休暇 開始  
 8月31日(日) 夏期休暇 終了  
 9月1日(月) 1・2・3・4年生授業再開  
 6年生第2回総合学力試験(2日(火)まで)  
 12日(金) 1・2・3・4年生前期授業終了  
 18日(木) 1・3・4年生前期定期試験(29日(月)まで)  
 19日(金) 2年生前期定期試験(26日(金)まで)  
 29日(月) 解剖慰霊祭(水道橋校舎)(2年生)  
 10月1日(水) 1・2・3・4年生後期授業開始  
 31日(金) } 第40回東歯祭(準備・後片付けを含む)(予定)  
 11月3日(月) }  
 4日(火) 振替授業(月曜日分)  
 8日(土) 推薦入学選考・学士編入学試験(予定)  
 25日(火) 6年生第3回総合学力試験(26日(水)まで)  
 26日(水) 振替授業(月曜日分)  
 12月18日(木) } 1・2・3・4年生前期追・再試験  
 24日(水) }  
 20日(土) 5年生総合学力試験

12月25日(木) }  
 平成21年 } 冬期休暇  
 1月7日(水) }  
 6日(火) 6年生第4回総合学力試験(7日(水)まで)  
 8日(木) 1・2・3・4年生授業再開  
 15日(木) 振替授業(月曜日分)  
 17日(土) 大学入試センター試験(18日(日)まで)(予定)  
 24日(土) 5年生総合学力追・再試験  
 30日(金) 1・2・3・4年生後期授業終了  
 2月2日(月) 一般入学試験(期) センター利用入試(期)(予定)  
 6日(金) 4年生共用試験(CBT)  
 12日(木) 本学創立記念日  
 13日(金) }  
 19日(木) } 2・3・4年生後期定期試験  
 20日(金) 2年生総合学力試験  
 3年生総合学力試験  
 23日(月) 4年生総合学力試験  
 3月1日(日) 4年生共用試験(OSCE)  
 3日(火) }  
 6日(金) } 2・3・4年生後期追・再試験  
 9日(月) 2年生総合学力追・再試験  
 4年生共用試験(CBT)追・再試験  
 10日(火) 3年生総合学力追・再試験  
 4年生総合学力追・再試験  
 14日(土) 一般入学試験(期) センター利用入試(期)(予定)  
 25日(水) 第114回卒業式

## 東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗  
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文（平成20年3月現在）

### 編集後記

本学の市川旧進学課程のキャンパス、そこには写真のような血脇記念館がありました。この建物は血脇守之助先生が仕事の最盛期時代に住まれた家です。以前は、明治神宮北参道の地にあり、先生が昭和の初年、原宿の新居にお引越しになった後、東京都医業健康組合の事務所として長く使われておりました。その後、昭和34年7月16日、東京都医師会のご好意により本学に寄贈され、この地に移築再建されました。先生の遺徳を偲ぶ縁がとして、さらに厚生施設の少ない学生の「憩い」の場としても供されることになりました。正確には先生の号の名から「血脇記念館天籟荘」と命名されましたが、いつとはなしに、学生たちから血脇会館と呼ばれるようになりました。

昼休みの語らいのほか、放課後も茶道部、謡曲部、囲碁部、将棋部などの文化部が使用させていただいたと記憶しております。同級生や、先輩後輩たちが、松風の鳴る釜の前で抹茶を静かに点てる、背筋よろしく朗々と節をつけて世阿弥を謡う、寡黙に時には笑いながら碁を強く打つ、などなど、皆様にもその光景が想い出されることでしょう。「大血脇」の名を意識することなく、学生たちが自由に無心に使わせていただいたことこそ、血脇先生の御遺徳ではなかったかと思えてなりません。

さて、今年の春は気候が激しく変化し、暖かい春の日差しが待ち遠しく感じられました。ソメイヨシノは例年になく長い間、しかも、見事に咲き誇りました。そのような中、本学の卒業式は幸いなことに、前日の大雨とは打って変わって快晴の下で挙行されました。126名の卒業生の、これからの幸多からんことを祈ります。

（広報・公開講座部長：内山健志）



血脇記念館天籟荘